

代表挨拶 柳原 和歌子会員

「誕生日のお祝いありがとうございます。
心は永遠の35才で、これからもがんばります」



ロータリーの友 解説

■広報・ICT委員会 委員長 菊池 裕一
(横組) P.3 RI会長メッセージ

ロータリー財団月間の11月は、寄付を行うだけではなく、寄付をする理由についても考えて頂きたいと思っています。今月は、感謝の気持ち、喜び、希望を寄付という形で表しましょう。

P.5 インターアクト

未来への羅針盤

世界インターアクト週間の記事です。大阪・関西万博にて、第2660地区のインターアクトクラブの代表が「人権と平和」についてプレゼンを行いました。

P.20 ポリオ根絶、ビルゲイツ財団について

ゲイツ財団は、設立から25年間で1000億ドル以上を拠出してきました。ポリオ根絶は依然として最優先課題です。国際ロータリーとゲイツ財団は、今後3年間で最大4億5000万ドルの資金調達を継続して、その1ドルごとにゲイツ財団が2ドルの上乗せをする形で資金を拠出します。(縦組) P.14 齊藤敏雄会員の記事が出ておりましたので紹介をします

「第2期ローターアクトの船出」、7月14日、大宮西ローターアクトクラブ(RAC)の第1回例会の開催を告げる、点鐘の音が鳴り響いた……。大宮西RC一同、この時を何よりも心待ちにしていた。当クラブ会員で、地区ローターアクト特別推進委員長を務める内山泰成氏に至っては、日を潤ませている。そもそも大宮西RACは1971年に誕生(当初は埼玉整学RACとして結成し、その後名称変更)したが、会員の減少などにより、2001年にひっそりと解散。内山氏はかつてそのクラブに所属していただけに、感慨もひとしおだったのだろう。復活のきっかけは前年度、地区青少年部門から独立してローターアクト特別推進委員会が設置されたこと。その活動の一環としてクラブ創設が奨励され、大宮西RCに白羽の矢が立てられた。しかし、解散の過去があるために、クラブ内では賛否で意見が割れた。そんな中、今年度のクラブ会長を務める横溝一樹氏から「ぜひとも挑戦してみたい」と熱意ある声が上がったことで、クラブは一丸となり、各会員とも協力が得られそうな大学や地域コミュニティなどに赴き、声かけに奔走。ついに、創立にこぎ着けることができた。そしてこの日、初例会を迎え、第2期大宮西RAC創立会員9人の船出をその目でじかに見ようと、多くのロータリー会員が出席。かつての苦い経験を思い出すことよりも、むしろ、若い人たちを応援する喜び、若い人たちの挑戦を見守る感動を肌で感じられる機会となった。

とても良い記事だと思います。

テーブルディスカッション

新規地域社会奉仕事業の方向性について



管理運営委員会 委員長
小林 政良



社会奉仕委員会 委員長
金 福漢



スマイル報告

■副SAA お手伝い
小林 訓子

進行は、副SAA 吉田 浩士
が務めました



出席報告

■出席委員会 委員長
新藤 栄介

